

長島 昭久

衆院議員
(民主党)



ながしま・あきひさ
1962年生まれ。慶応
大卒。米ジョンズ・
ホプキンス大学院
修了。衆院議員公設
秘書、米外交問題評
議会上席研究員など
を経て03年初当選。

日米の長期安定狙い双方の負担修正を
SACCOは空文化、普天間は嘉手納へ

同盟、根本的再定義を

本は日米同盟を機軸にし
世界と関わっていくわけ
そのために日米関係を長
に安定させるためにどう
らいいか考えるべきだ。
までは「リスクは米国、
トは日本」という構図が
た。有事には米国が守る

から、基地や金は日本が負担
するということだが、これが
日米同盟関係を動揺させてき
た一番の原因だと思っ
日本の国民の意識も世界に
対して積極的に関わろうと、
変わってきた。周辺諸国も、
日本が侵略するとは思わなく

なってきた。いろいろな変化
を捉え、根本的に日米同盟関
係を再定義し、リスクもコス
トも日米で適正に分担する関
係に修正すべきだ。

リスクについては、日本が
米国におんぶに抱っこという
依存体質から脱して、緊密な
協力を対等にやっていける方
向に踏み出すべきだ。

コストについては大きな削
減のチャンスととらえるべき
だ。一番の問題は普天間飛行
場で、厚木、横田と並び、日
本にある米軍基地のうち、市

街地に囲まれた脆弱な基地
の象徴だ。一番早いのは米空
軍の嘉手納基地に移転する方
法だ。普天間から辺野古への
基地移転を盛り込んだSAC
O合意はすでにフィクショ
ン。本気で信じている人はほ
んどいないのではないか。

沖繩の海兵隊については、
アジア太平洋地域で毎年70
80回行われている多国間演習
に参加させるという役割があ
る。この意味では沖繩は戦略
的に便利だと考えられる。し
かし、アジアから中東にかけ
ての「不安定の弧」に対し、
即応性、機動性を発揮するに
はベストな場所ではないはず
だ。 Guam やオーストラリア

にいた方がより機動的に展開
できる。日本政府はそういう
主張をしてきてもよかったは
ずだ。そもそも、米軍再編の
話は3年前から始まっていた
のに、本格的な話し合いが始
まったのが昨年の11月で、そ
れまで日本側はまったく何も
していなかった。米国が怒る
のも無理はない。

陸軍司令部の日本移転問題
で、日米安保条約の極東条項
が議論になっているが、ナン
センスだと思う。今までだっ
て横田の在日米軍の空軍司令
官に「横田の所掌範囲はどこ

ですか」と聞けば、当然、極
東を越えて「アジア太平洋、
インド洋」と言うに決まってい
る。外務省はこれまで「日
米同盟協力の範囲は、日米安
保条約5条の日本の防衛、6
条の極東に限りませんよ」と
説明してきたはずで、実際、
イラクやアフガニスタンにも
兵が出た。

アジア太平洋の安全保障に
関して私が提唱しているのは
「ホスト・リージョン・サポ
ート」という構想。米国の同
盟国が協議体を作って、負担
を分かち合うという仕組み
だ。これまでは、米国の同盟
国それぞれが、米国を支援す
る仕組みだった。結果的に冷
戦の残しである韓国と日本に
負担が集中し、この枠組みに
ただ乗りする国もあった。日
本には、思いやり予算が35
00億、4000億円ある
が、この中から他国の基地施
設建設に回すことくらいはで
きるのではないかと考える。